

# 小学校高学年道徳科における

## 「議論する授業」にするための方策とは

—児童の意識調査からその手立てを探る—

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 初等教育分野 久保田 雄太

### 1. はじめに - 本稿の課題と目的 -

#### (1)道徳教育の動向

これまでの道徳教育の課題として、「道徳教育の重点目標を設定し、充実した指導を重ね、確固たる成果を上げている学校がある一方で、多くの課題もある」と指摘されている。(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について(報告)1頁)

具体的には、量的課題と質的課題の2つが挙げられている。量的課題とは「道徳の時間」の授業が年間35単位時間、確実に実施されていないという課題である。その理由としては、「歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮があること、他教科に比べて軽んじられていること」などが挙げられている。

質的課題とは、授業方法が、読み物の登場人物の心情理解が中心になるなど型にはまったものになりがちであることや学年が上がるに従い道徳の授業に対する児童生徒の受け止めがよくない状況にあるなど、指導方法に関わる課題である。

また、「道徳教育の充実に関する懇談会『今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)』では、「道徳教育の目指す理念が関係者に共有されていない」、「教員の指導力が十分でなく、道徳の時間に何を学んだかが印象に残るものになっていない」などの課題も指摘されている。

このような中、学習指導要領が改訂され、道徳の授業時数の「量的確保」を目的に「特別の教科 道徳」が新設され、「質的課題」を改善するために「考え、議論する道徳」へと転換を図ることが求められることになったと考える。

「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、道徳教育において、「よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢」を育成することが求められている。また「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するように指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」と書かれている。

さらに、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図るものである。(文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』2頁)と指摘されている。

道徳科の授業において、その目標である①道徳的諸価値について理解する②自己を見つめる③物事を多面的・多角的に考える④自己の生き方について考えを深めることなどの学習を通して道徳性を育むためには、「考え、議論する」道徳への質的転換が重要なのである。

#### (2)考え、議論する道徳

「考え、議論する道徳」に質的転換を図るにあたり、道徳の授業における「考える」や「議論する」を、どのように捉える必要があるのだろうか。また、これまで道徳の時間で「考えて」きたことと、どのような違いがあるのだろうか。まず、「考える」とは、児童が、答えが一つ

ではない道徳的課題に対して、主体的に自分との関わりの中で考え、自分の考え方や感じ方に気付くことだと考える。

次に「議論する」とは、児童が多様な考え方や感じ方に出会い、交流することで、自分の考え方や感じ方を明確にすることだと考える。「議論」というと、ディベートをしたり意見を戦わせたりすることをイメージすることが多いが、道徳の授業の中では、意見の交流を行い、様々な考え方に触れ、自分なりの納得解を得るイメージだと考える。

つまり、分かりきったことの確認やこうしなさいと教えること、望ましいと思うことを言わせるような授業ではなく、なぜ、大切なのかなど、教材などをとおして気付いた道徳的課題や、本時のねらいに沿った問いなどに対して、まず、児童が自分のこととして考えられるようにしていくことが必要だと考える。そして、考えた内容をもとに他者との対話を通して、様々な感じ方や考え方にふれ、自己の考えを深めていくことが大切である。「きまりは守るべき」「友達とは仲良くするべき」というようなただ一つの答えに導くような授業では、意見を交流（議論）する意味が生まれにくい。

## 2 研究の目的と方法

### (1)研究の目的

「考え、議論する道徳」に質的転換が求められているが、これまでの自分の実践を振り返ってみると、子どもたちが主体的に自分との関わりで生き生きと考え、議論をした授業など想起することができない。また、現在担当している高学年児童の発達段階を考えると、「考える」ことはできるのだが「議論すること」（道徳科では意見の交流を通して、自分の考えを見つめたり再構築したりすること）が、やりにくかったり、できていなかったりする傾向がある。特に道徳科では、自分の内面にある思いを話すことが多くなるので、余計にその傾向が強い。

そこで、本研究では、小学校高学年児童に対して、どのような手立てを講じることが「議論する道徳」となるのかについて明らかにするこ

とを目的とする。

なお、本研究における「議論する」とは「児童が多様な考え方や感じ方に出会い、交流することで、自分の考え方や感じ方を明確にすること」と捉えることとする。

### (2)研究の方法

#### ①意識調査の実施

児童の道徳の授業に対する意識や課題について考えたり、友達の発言を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることに対する意識調査を授業前と授業後に行う。

#### ②授業での検証

意識調査の結果をもとに、児童が議論するために有効だと思われる手立てを実際の授業で行う。子どもたちが主体的に「考え、議論する」道徳の授業になっているかについて、授業後に再度意識調査を行い、その結果から手立てが有効であったかを検証する。

## 3 研究の結果と考察

### (1)事前意識調査

#### ①内容と結果

表1に示す内容について事前意識調査を行った。調査項目1から4については、「好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の4つの中から最も当てはまるものを1つ選んで回答させた。調査項目5については、具体的に理由を複数回答させ、調査項目6については、理想を記述させた。

(I)調査日時 2020年6月22日

(II)調査対象 公立小学校第6学年 26名

表1 事前調査の内容とその結果

1	あなたは道徳の授業が好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。 ・好き [7名] ・どちらかといえば好き [14名] ・どちらかといえば嫌い [4名] ・嫌い [2名]
2	あなたは道徳の時間に、課題について考えることが好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。 ・好き [5名] ・どちらかといえば好き [11名] ・どちらかといえば嫌い [名5] ・嫌い [1名]
3	あなたは道徳の時間に友達の考えを聞くのは好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いて

	<p>ください。</p> <p>・好き [11名] ・どちらかといえば好き [15名]</p> <p>・どちらかといえば嫌い [0名] ・嫌い [0名]</p>
4	<p>あなたは道徳の時間に自分の考えを伝えることは好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。</p> <p>・好き [6名] ・どちらかといえば好き [12名]</p> <p>・どちらかといえば嫌い [6名] ・嫌い [2名]</p>
5	<p>4で「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた人に聞きます。どうすれば自分の考えを伝えやすくなると思われますか。当てはまるものすべてに丸をつけましょう。</p> <p>①課題がもっと簡単なら伝えられる。 [2名]</p> <p>②仲の良い友達になら伝えられる。 [3名]</p> <p>③となりの人や班の人など、少人数なら伝えられる。 [8名]</p> <p>④先生に指名されれば、伝えられる。 [4名]</p> <p>⑤友達に指名されれば、伝えられる。 [3名]</p> <p>⑥その他 ( )</p>
6	<p>あなたにとって理想の道徳の授業とはどんな授業ですか。</p> <p>従来の道徳に関する記述 [4名]</p> <p>現状のままでよい [5名]</p> <p>「考え、議論する」道徳に関する記述 [9名]</p> <p>その他の記述 [7名]</p>

## ②考察と議論するために有効と考えられた手立て

結果より、「好き」または「どちらかといえば好き」を選び、道徳の授業を肯定的にとらえている児童が 80%、課題について考えることに対して肯定的にとらえている児童が 65%、友達の考えを聞くことに対して肯定的にとらえている児童が 100%、自分の考えを伝えることに対して肯定的にとらえている児童が 69% だった。この結果より、道徳の授業に対して肯定的にとらえている児童が多く、特に全員が友達の考えを聞きたいと思っていることが分かった。一方で、課題について考えたり、自分の考えを伝えたりすることを嫌いだと感じている児童が比較的多いことが分かった。課題について考えることが嫌いな児童の主な理由は、「難しい」「苦手」「大変」などで、自分の考えを伝えることが嫌いな児童の主な理由は、「恥ずかしい」「間違っていたら不安」「緊張する」「苦手」「得意ではない」などであった。

また、課題を伝えることに苦手意識を持っている児童の数は、授業を行っている教師の見取りではもっと多く、積極的に発言できる児童は 6 名程度しかいないのが現状である。また、自分の考えを伝えるのが嫌いな児童全員が、隣の人や班の人など少人数なら意見を伝えやすいと感じていることが分かった。

この結果から、課題について考えることに対して肯定的にとらえている児童の割合が低いことへの対策として、児童が考えるに値する発問を構想するために、「授業構想シートを用いた中心発問の工夫」を図ることとした。

さらに、自分の考えを伝えるのが嫌いな児童全員が、隣の人や班の人など少人数なら意見を伝えやすいと感じていることから、「少人数での話し合いの場面の工夫」を授業にとり入れ、その効果を検証することとした。

## ②「議論する」ために授業の中で取り入れた手立て

### ①授業構想シートを用いた中心発問の工夫

児童が考えるに値する発問を構想するために、授業構想シートを作成するようにした。授業日・内容項目・資料名の他に以下の 5 点を記入した。

①本時に扱う内容項目についての児童の実態や教師の願い②ねらい（心情、判断力、実践意欲・態度）を意識して③ねらい達成のための中心的な学習・問い④中心的な学習・問いを効果的なものにするための工夫⑤中心的な学習の前後の発問や、導入・終末等の展開や工夫。

このシートでは、学習する内容項目に対しての児童の実態や教師の願いから、目標を設定し、その目標を達成するために中心発問を考え、さらにその中心発問を効果的にするための工夫を考えることができたと考えた。これを作成することによって、「考え、議論する」道徳にするために、「児童に何を考えさせるか」が明確になり、目標と展開にずれが生じにくくなる考えた。

道徳科授業構想シート		
授業日	内容項目	資料名
令和2年10月13日(火) 2校時	〇感動、畏敬の念	20百一才の富士 (教育出版社『小学道徳6 はばたこう明日へ』)
1 本時に扱う内容項目についての児童の実態や教師の願い		
<p>教室から見える風景のちょっとした変化に気付いたり、美しいものに感動したりする児童が多いと感じる。しかし、子どもたちにとっては美しいものよりもゲームや遊びなどに対する関心の方が高いのではないだろうか。美しいものはなくても生活できるが、美しいものに感動する心があることで人生が豊かになることに気づかせ、美しいものを見つけたり、大切にしたりしていかうとする気持ちをもちてもらいたい。また、美しいものに対して様々な感じ方があることにも気づかせたい。</p>		
2 ねらい(心情、判断力、実践意欲・態度)を意識して		
<p>農村土牛の生き方について話し合うことを通して、美しいものや気高いものに感動する心をもち、それらを尊重し、大切にしようとする心情を育てる。</p>		
3 ねらい達成のための中心的な学習・問い		
<p>美しいものが周りにあるとどんなよいことがあるだろう。</p>		
4 中心的な学習・問いを効果的なものにするための工夫		
<p>美しいものがなくても生きていけることを伝え、種さぶる。</p>		
5 中心的な学習の前後の発問や、導入・終了等の展開や工夫		
<p>① これまで人生で一番美しいと感じたものを書く。(WS) 自然・美術・音楽・人の行いなど ② 『平成の富士』を見て感じたことを発表する。 ③ 資料を読む。 ④ 100才になった土牛が、どうして富士山の絵を描こうとしたのかを考える。 ⑤ 土牛の言葉「芸術に完成はありません。大事なことは、どこまで大きく、未完成で終わるがです」の意味を考える。 ⑥ 人間の生活に美しいものは必要だろうか。必要な場合、美しいものが周りにあるとどんなよいことがあるだろう。(WS) ⑦ これからどうしていききたいかを含めて学習感想を書く。(WS)</p>		

図1 実際に使用した授業構想シート

また、これまでの自分の実践を振り返ると、深く考えなくても簡単に答えが出せるような問いだったり、望ましいと思うことを言わせたりするような問いでたくさん授業を行ってきた。しかし、大して思考しなくても答えが出してしまうような問いでは、考える必要性がないから考えない、分かりきっているから議論をする必要性も感じないという負の連鎖に陥ってしまう。このような問いでは、「考え、議論」させることはできない。「考え、議論する」道徳にするには、答えが一つではない、考えるに値する問いを用意することが大切だと考えた。

## ② 少人数での話し合い場面の工夫

道徳の授業において、児童が考えた意見やその発言には間違いがないことや、いろいろな考えが出た方が学級全体のためになるということ折に触れ話をし、児童の意識改革を試みることにした。また、事前の意識調査の結果から、これまでの教師の見取りよりも発言することに肯定的な意識をもっている児童が多いことが分かったので、机間巡視の中でよい考えを見つけたら指名して発表させることにした。加えて、発言していない児童に意見を言わせたり、

班で ABCD などを決めておき、指名して機械的に意見を言わせたりすることにした。その際、発言することが嫌いでも肯定的に受け止めていけば児童の意識が変わってくると考えたからだ。他にも、意見を言うことに否定的な意識をもっている児童の多くが、「比較的意見を言いやすい。」と答えた少人数での話し合いを取り入れることにした。具体的には、隣・前後・斜めなどの児童と交流をさせ自信をもたせたり、深めたい部分は班などのグループでの話し合いを取り入れたりにすることにした。これらにより自分の考えを伝えることに対するハードルが下がり、意見を言いやすくなると考えた。また、発言することが苦手な児童の考えは、交流したグループの代表の児童に紹介してもらえば、発言が苦手だけどよい考えをもっている児童の考えなど、多様な考えを全体で吟味することが出来ると考えた。

## (3) 授業での検証結果

### ① 授業構想シートを活用した問いの工夫

表2のように、実際に授業構想シートを活用し、授業を行った。

表2 実際に作成した授業構想シート①

① 内容項目	礼儀
② 教材	「礼儀正しく真心をもって」
③ 児童の実態と教師の願い	<p>場に応じた言葉遣いができる児童が多い。一方で挨拶を自分から元気よくできない児童も多い。また、一部の児童はスポ少や習い事では礼儀正しくしているが学校ではしていない児童も見受けられる。また自分たちのためにしてくれている人がいることに気付いていない児童も多いと感じる。修学旅行や中学進学を見据えて、礼儀作法のよさや意味を話し合い、心を込めて人に接することが出来るようになってほしいと願っている。</p>
④ ねらい	<p>たかゆきさんが(a)すがすがしい気持ちになった理由について話し合うことを通して、礼儀作法に込められた(b)相手を大切に思う気持ちに気づき、真心をもって人に接しようとする(c)実践意欲を育てる。</p>

⑤展開

- ①どんな挨拶をしているか振り返る。
- ②資料を読む。
- ③どうしてたかゆきさんは茶道体験教室が嫌になったか。
- ④茶碗を下げるたかゆきさんが、(a)すがすがしい気持ちになったのはどうしてか。
- ⑤(b)何のために、挨拶や礼儀があるのか。
- ⑥このクラスの挨拶や礼儀について考える。(自己を振り返る)
- ⑦日常の様々な場面で誰に支えられているか。その人たちに(c)どうすれば、真心が伝えられるか。
- ⑧これからどうしていきたいかを含めて学習感想を書く。

このように学習する内容項目とそれに対する児童の実態、教師の願いからねらいを設定し、それを達成するために学習の展開を考えるようになった。表2の④のねらいと⑤の展開の(a)(b)(c)は、それぞれ対応している、ねらいを達成するための発問になっている。このように授業を構想することによって、ねらいと展開がブレずに児童を価値に向き合わせることができるようになった。

表3 実際に作成した授業構想シート②

①内容項目 感動 畏敬の念

②教材 「百一才の富士」

③児童の実態と教師の願い

教室から見える風景のちょっとした変化に気付いたり、美しいものに感動したりする児童が多いと感じる。しかし、子どもたちにとっては美しいものよりもゲームや遊びなどに対する関心の方が高いのではないだろうか。美しいものはなくても生活できるが、美しいものに感動する心があることで人生が豊かになることに気づかせ、美しいものを見つけたり、大切にしたりしていこうとする気持ちをもってもらいたい。また、美しいものに対して様々な感じ方があることにも気づかせたい。

④ねらい

奥村土牛の生き方について話し合うことを通して、美しいものや気高いものに感動する心を持ち、それらを尊重し、大切にしようとする心情を育てる。

⑤展開

①これまで人生で一番美しいと感じたものを書く。

②『平成の富士』を見て感じたことを発表する。

③資料を読む。

④100才になった土牛が、どうして富士山の絵を描こうとしたのかを考える。

⑤土牛の言葉「芸術に完成はありません。大事なことは、どこまで大きく、未完成で終わるかです。」の意味を考える。

⑥中心発問

○人間の生活に美しいものは必要だろうか。

○美しいものが周りがあると、どんなよいことがあるのだろうか。

⑦これからどうしていきたいかを含めて学習感想を書く。

表3に示す事例は、答えが一つではない、考えるに値する問いを示したことで、児童は考え、それを伝えようとしたり、他の人がどう考えたのかが気になり、聞こうとしたりする様子が、これまで以上にうかがえた例である。

本時に扱った教材について、指導書の中心発問は、「どうして人間は自然の美しさを求め続けるのでしょうか。」になっていた。指導書では、人間が自然の美しさを求め続けることが前提となっているが、クラスの実態を考えると、美しいものはあった方がよいと思っはいるが、ゲームや遊びに対しての方が関心が高い児童が多いと感じていた。そこで、「美しいものがなくても人間は生きていける。」ことを確認したうえで、「人間の生活に美しいものは必要だろうか。美しいものが周りがあると、どんなよいことがあるのだろうか。」という発問にした。

授業の中で児童からは、「見た人が癒される、感動する、心が動かされる、リラックスできる、息抜きになる、ストレス解消になる、嫌なことを忘れられる、ないつまらない、楽しい、人生が豊かになる、頑張ろうと思える」などの様々な考えが出された。

このような「答えが一つではない、考えるに値する問い」を考えたことで、児童は一生懸命考え、それを伝えようとしたり、他の人はどう考えたのかが気になり、一生懸命聞いていたりしたのだと思う。

児童のワークシートには、

- ・これから自分が好きだと思う景色などを見たり、曲を聞いたりして、楽しいことを見つけ出していきたい。
  - ・たくさんの美しいものがあっていいと思った。こういうものがあるから豊かに生きることができるんだと改めて感じた。
  - ・ぼくにとって美しいものは人生の一つだから大切にしていきたい。
  - ・美しいものは人の心を動かすことができるようになった。
  - ・これまで美しいものをあまり意識していなかったけど、大切さを知った。
  - ・美しいものの大切さが分かった。美しいものが見たくなった。自然をもっと大切にしていきたい。
- などの感想が書かれており、本時に扱う内容項目である美しいものに対する【感動 畏敬の念】に関わる多様な感想が見て取れる。

## ②少人数での話し合い場面の工夫

### 事後意識調査の内容と結果から

事後意識調査の内容と結果を表4に示す。1～4の結果の下に、1学期と変容があった児童の理由を書いた。網掛けがしてあるものは、評価が下がった児童、網掛けがしていないものは評価が上がった児童の理由になっている。その中でも、否定的な理由を書いている児童の理由に下線、「考え、議論する」道徳に関わる記述に波線を引いた。

(I)調査日時 2020年12月8日

(II)調査対象 公立小学校第6学年 26名

表4 事後意識調査の内容と結果

1	あなたは道徳の授業が好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。
	・好き [5名] ・どちらかといえば好き [15名] ・どちらかといえば嫌い [4名] ・嫌い [2名]
	5 自分の考えを言うのが好きではないから。 7 活躍した人やその物語が分かる。
	16 話を聞くのが好き 20 頑張っている人や努力している人のことを知ると自分も頑張ろうと思うから。 21 間違えていたりして自信がないから。 24 自分の意見をいっぱいいえるから。 25 考えるのが面白いから。 6 いろいろな内容があるから。 10 いろいろな考えが出てきたりして楽しい。

2	22 みんなの意見や考えが分かるし、いろいろな考えがあつて面白い。
	あなたは道徳の授業で、課題について考えることが好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。
	・好き [3名] ・どちらかといえば好き [13名] ・どちらかといえば嫌い [9名] ・嫌い [1名]
	4 分かれば楽しいから。 5 考えることはそんなに好きじゃないから。 16 自分の考えがいっぱい出てくるから。 21 分からないことがあるから。 24 目的をもって勉強したいから。 6 他のことが考えられなくなるから。 7 問いに対して自分の意見を考えることが楽しいから。 8 難しい問いがあるから。 10 時々分からなくなるから。 22 いろいろなことを考えることができるから。
3	あなたは道徳の授業で友達の考えを聞くのは好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。
	・好き [9名] ・どちらかといえば好き [17名] ・どちらかといえば嫌い [0名] ・嫌い [0名]
	2 自分の考えと比べて考えることができるから。 3 自分の考えが深まるから。 17 友達の考えがよいから。 21 友達の考えを聞くと分かるようになるから。 24 友達の考えを自分の意見に取り入れることができるから。
	10 とてもいい考えが出てくるから。 16 他の人の考えも知れるから。 20 友達の考えを聞いて、自分の考えと比べるのが面白いから。
4	あなたは道徳の授業で自分の考えを伝えることは好きですか。当てはまるものに丸をつけて、理由も書いてください。
	・好き [3名] ・どちらかといえば好き [10名] ・どちらかといえば嫌い [11名] ・嫌い [2名]
	2 考えをもてるけど、みんなに伝えるのが苦手。 3 自分の意見がみんなに伝えられるから。 7 他の人の考えと違っていたら嫌だから。 10 自分の考えがショボいから。 11 自分で伝えるのは、あまり好きじゃないから。 12 絶対に発言したくないわけではないけど、みんなの考えと全く違っていたらどうしようと思うから。 16 嫌いなわけではないけど、聞いていた方が好き。 17 なし 21 間違っていたらどうしようと思うから。 24 自分の意見をみんなに伝えることができるから。 26 自分の思ったことを言えるから。 9 間違いはないから。 13 自分の考えを伝えられるから。 25 みんなに分かってもらえるから。
	5 あなたは前よりも道徳の授業で自分の考えを伝えられるようになったと思いますか。どちらかに丸をつけて理由も書いてください。
5	・はい [21名] 挙手や発言回数の増加[16名] 多様な考えをもてるようになった[3名] グループ内で伝えられるようになった[2名]
	・いいえ [5名]

	<p>考えを伝えることができていないから。 1学期とあまり発言回数が変わっていないから。 自分から発言していないから。 友達に意見を言っていないから。</p>
6	<p>お互いの考えを伝え合うために、次の方法を取り入れました。あなたが「よかった。」と思う方法すべてに丸を付けてください。</p> <p>①自分が意見を交流したい人と自由に伝え合う。[8名] ②となりの人など、2人で伝える。[17名] ③班の中で伝える。[22名] ④指名されて全体へ伝える。[7名] ⑤班で話し合ったことを、クラス全体に伝える。[17名]</p> <p>また、お互いの考えを伝え合うために一番よかったと思うものを1つ選び、その理由も書いてください。</p> <p>①自分が意見を交流したい人と自由に伝え合う。[5名] ・より多くの人と交流すれば、たくさんの考えをもてるから。 ・自分が交流したいと思っている人なら、考えを伝えやすいから。 ・全員の意見が分かるから。 ・いろいろな人の考えが知れるし、自分の考えを相手に伝えることができるから。 ・もっと人の意見が聞けるから。</p> <p>②となりの人など、2人で伝える。[0名] ③班の中で伝える。[6名] ・2人より班で伝えた方がいろいろな意見が出せるから。 ・班の人の意見が聞けるから。 ・あまり緊張しないで、いろいろな意見が聞けるから。 ・そんなに緊張しなかったから。 ・いろいろな意見が出るから。 ・班の人の意見が知れるから。</p> <p>④指名されて全体へ伝える。[2名] ・隣や班だけでなく、全体に伝えると、もっと考えが深まるから。 ・みんなで楽しく発表するのが好き。</p> <p>⑤班で話し合ったことを、クラス全体に伝える。[13名] ・班で話し合ったことを、クラス全体に伝えれば、班の人全員の考えが広まっていいと思うから。 ・時間もかからず、全員の意見を聞けるから。 ・話し合う力やまとめる力がついたと思うから。 ・みんなの意見をまとめて聞けるから。 ・自分の考えに自信がついて発表できるかもしれないから。 ・班で話し合ったことをクラス全体に伝えれば、いろいろな考えが出ていいと思ったから。 ・班で話し合っただけで、もっといい意見になるから。 ・少し自信がつくから。 ・班の中で話し合い、まとめることでより良い意見ができるから。他の班の発表を聞いて、いろいろな考えを知れるから。 ・班の中でよかったものをクラスに広げられるし、その考えについて学べるから。 ・班の中のいい考えを、みんなに伝えられるから。 ・班の意見をまとめて、クラスのみんなに伝えられるから。 ・いっぱいみんなの意見が知れるから。</p>
7	<p>あなたが6年生になってからの道徳の授業で、一番印象に残っている授業とその理由を書いてください。</p> <p>志を得ざれば、再びこの地を踏まず 6人 手品師 4人 六千人の命のピザ 3人 礼儀作法と茶道 3人 父の言葉 3人 応援団の旗 2人 「しかみ像」にこめられた思い 2人</p>

	<p>フラスコで育てた花 1人 百一才の富士 1人 志を立てる 1人</p>
8	<p>あなたにとって道徳の授業はどんな時間ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話を読む時間。</li> <li>・自分の考えを伝え合ったり、今の自分がどう思っているかを考える時間。</li> <li>・いろいろな考えをもてて、その考えをみんなに伝えられる時間。</li> <li>・有名なものを知ったり、教えてもらったり、勉強になったり、興味もてる時間。</li> <li>・あまり好きではないから嫌な時間。</li> <li>・自分の考えが多く出てくる時間。</li> <li>・自分の考えを広められる時間。</li> <li>・自分のためになる時間。</li> <li>・登場人物やクラスのみんなの考え方や思いを学んで、それを自分の考え方や行動に生かす時間。</li> <li>・いろいろな意見が出て楽しい時間</li> <li>・みんなの意見がたくさん聞ける時間。</li> <li>・課題について考えて、人の気持ちをしっかり考える時間</li> <li>・昔のことやいろいろな出来事を知れる時間</li> <li>・いろいろなことについて考えさせられる時間。</li> <li>・発言がたくさんできて、考えが深まり、どんな時にどんな行動をすればよいか学習できる時間。</li> <li>・静かに話を聞いて、意見を言ったりできる時間。</li> <li>・いろいろなことを考える時間。</li> <li>・いろいろなことを大切にしようと思う時間。</li> <li>・社会で生きていくために必要なことを学ぶ時間。</li> <li>・たくさんの生き方や気持ちを知ることが出来る時間</li> <li>・人のことを考えたり、自分の考えを伝えたりする時間</li> <li>・人生に役立つ時間。</li> <li>・ねむい時間</li> <li>・自分の考えを広げる時間。</li> <li>・気持ちを考える時間。</li> <li>・素晴らしい時間。楽しい時間。</li> </ul> <p>従来の道徳に関する記述[4名] 「考え、議論する」道徳に関する記述[15名] 道徳に対する肯定的な記述[5名] 道徳に対する否定的な記述[2名]</p>

事前意識調査と事後意識調査の結果の比較を表5に示す。数字は選んだ児童の人数を表している。

表5 事前、事後意識調査の比較

		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
一学期	1 道徳の授業が好き	7	14	4	1
	2 課題について考えるのが好き	5	11	5	2
	3 友達の考えを聞くのが好き	11	15	0	0
	4 自分の考えを伝えるのが好き	6	12	6	2

二学期	1 道徳の授業が好き	5	15	4	2
	2 課題について考えるのが好き	3	14	8	1
	3 友達の考えを聞くのが好き	9	17	0	0
	4 自分の考えを伝えるのが好き	3	10	11	2

これまでに述べた手立てを講じて実践を重ね、児童の反応も多様な考えも出てくるようになっていると手ごたえを感じていた。しかし、「好き」を4点、「どちらかといえば好き」を

3点、「どちらかといえば嫌い」を2点、「嫌い」を1点として数値化すると、どの項目でも1学期より数値が下がってしまった。個々の児童の6月と12月の変容を見ると、どの項目においても1点の増減はあったが2点以上の増減は見られなかった。

「自信がない」や「苦手」という理由から、道徳の授業や考えること、意見を伝えることを嫌いだと感じている児童がいることが分かった。聞くことについては、数値は下がっているものの、否定的な理由は1つもなかった。この結果から、手立てが有効ではなかったのではなく、児童の「考えること」や「考えを聞くこと」に対する認識が上がったため、評価が全体的に下がったとは言えないだろうか。その証拠に、「あなたは前よりも道徳の授業で自分の考えを伝えられるようになったと思いますか。」という質問に対しては、26人中21人が「はい」と回答している。「好き」「嫌い」では、数値上「嫌い」が増えてしまったが、「伝えられるようになった」と80%の児童が感じている。このことから取り入れた手立ては有効であったと考えられる。また、その中でも「自分が意見を交流したい人と自由に伝え合う」が18人、「隣同士など近くの席の友達と2人で伝え合う」が17人、「班の中で伝え合う」が22人、「班で話し合ったことを、クラス全体に伝える。」が17人有効だったと回答している。どれもそれほど大きな差はないが、多くの児童が班で話し合うことが、互いの考えを伝えやすいと感じていることが分かった。その中で一番有効だったものを聞くと、「班で話し合ったことを、クラス全体に伝える。」を選ぶ児童が一番多かった。この結果から、児童は班の中の話し話し合いも大切だが、それをクラス全体に伝えて、吟味していくことの大切さを感じているといえるのではないだろうか。表4の理由から、本研究で想定する「考え、議論する」道徳に関する記述(波線部)も多く見て取れる。自分から考えを発言することは嫌いでも、多くの児童が道徳の授業で多様な考えを出し合い議論することの大切さを実感していることがうかが

える。

#### 4 おわりに

自分の内面について考える道徳において、その思いを話すことに対する意識が簡単に変わることは難しいかもしれない。しかし、考えるに値する発問を学習の中心に位置づけたことで、子どもたちが課題に対して一生懸命考えるようになった。それにより、自分により考えが浮かんだ時には考えを伝えることに喜びを見出したり、友達の考えを聞いてさらに自分の考えが広まったり深まったりする経験をしていることが、事後意識調査より明らかになった。また、少ない人数で子ども同士の考えの交流を図ることで、自信をもたせることができ、さらには自分の意見と比較したり、友達のよい考えと合わせて自分の考えを再構築させたりすることにも繋がったことも見て取れる。班の中で話し合ったことを代表に言わせることで、意見を言うことが苦手な児童の考えも全体で共有し吟味することもできた。以上のことから取り入れた手立ては、小学校高学年の児童において「考え、議論する」道徳の授業にするために有効であったと考える。

#### <参考文献>

- ・教育出版株式会社『小学道徳 6 はばたこう明日へ 教師用指導書 朱書編』
- ・文部科学省(平成29年)『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
- ・神奈川県立総合教育センター(2017)『平成27・28年度研究〈小・中学校〉「道徳教育の充実」を目指した道徳科の授業づくり実践事例集』
- ・文部科学省 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)
- ・文部科学省 道徳教育の充実に関する懇談会(2013) 今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告)～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～
- ・田中一弘(2020) 笛吹市立春日居小学校校内研究会資料